

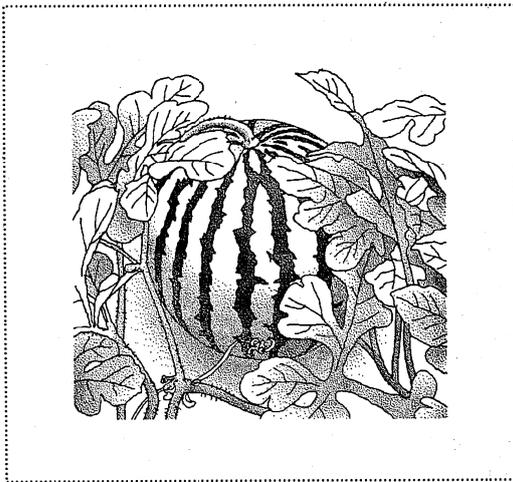
土壌や作り方で味に差

—— 鮫島 國親



水分が多いので栄養価が低いと思われがちですが、そうでもありません。カリウム、鉄分、ビタミン類、リコピンなどをバランスよく含み、優れた利尿作用があるといわれています。土壌条件や作り方で食味に差がでるようですが、昔加世田の砂丘試験地で食べたスイカはシャリ感がありとてもおいしかった記憶があります。今回はトンネル早だし栽培を紹介します。

発芽適温は30度、生育適温は18-28度で多日照を好みます。種まき期は1月(暖地) - 3月、定植期は3-4月で地温15度以上が必要です。スイカは土壌病害に弱いので接ぎ木苗をお勧めします。販売されていますが、好みの品種を選び接ぎ木苗作りの楽しみを味わってみてはいかがでしょうか。一般的な接ぎ木方法は挿し継ぎで、穂木となるスイカより台木を先にまきます(ユウガオ台で5日程度)。接ぎ木作業は台木の子葉以外の本葉を除去し、竹べらで軸に斜めの穴を開けて、くさび型にそいだ穂木を差し込んで行います。育苗日数50日、本葉五枚(摘心六枚)で定植します。本ばは1平方メートル当たり苦土石灰100グラム、堆肥2キログラム、緩効性の化学肥料70グラム(三要素15%の場合)を目安として施します。うね幅3-5メートル、トンネル幅1-2メートルとし、透明ポリ



リをマルチします。株間60-80センチに浅植えし、日中30度、夜間15度を目標に管理します。子づるは一方に3-4本伸ばし、着果節位以下の孫づるは除去します。1メートルくらいのころ、着果位置がトンネル内になるようにつる下げを行います。授粉は昆虫の活動が活発になるまでは、雄花を用いた人工交配が必要です。着果は15-20節(下から3番目くらいの雌花)を目標とします。湯飲み茶わん大のころ一株1-2果(小玉種は3果)に摘果します。果実を着けない遊びつるも肥大を助けます。草勢を維持すると2、3番果まで期待できます。成熟日数は大玉種で45日、小玉種で35日前後です。開花日別に色分けした棒を立て

(鹿児島県農業開発総合センター副所長)

平成19年3月8日(木) / 南日本新聞